

東芝換気扇取付説明書（ダクト用）

形名






給気形








DVF-23PUD8








- この換気扇の注意事項をよく知っていただき、正しく取り付けいただくために、この取付説明書をよくお読みください。
- 別売部品をご利用ください。（詳しくはカタログをごらんください。）
- 取付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れのしかたを説明してください。この取付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管していただくように依頼してください。

安全上のご注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ず守ってください。
- 表示と意味は次のようになっています。

表示		図記号の例	
表 示	表 示 の 意 味	図 記 号	図 記 号 の 意 味
 警告	"取扱いを誤った場合、使用者が死亡または（＊1）重傷を負うことが想定されること"を示します。		⊘は、禁止（してはいけないこと）を示します。 具体的な禁止内容は、⊘の中や近くに絵や文章で指示します。
 注意	"取扱いを誤った場合、使用者が（＊2）傷害を負うことが想定されるか、または（＊3）物的損害の発生が想定されること"を示します。		●は、強制（必ずすること）を示します。 具体的な強制内容は、●の中や近くに絵や文章で指示します。
*1：重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで後遺症が残るものおよび治療に入院や長期の通院を要するものをさします。			△は、注意を示します。 具体的な注意内容は、△の中や近くに絵や文章で指示します。
*2：傷害とは、治療に入院や長期の通院を要しない、けが・やけど・感電などをさします。			
*3：物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害をさします。			

 警告			
修理技術者以外の人は、分解・修理（※）をしない 火災・感電・けがの恐れがあります。 ※修理はお買上げの販売店または東芝エアコン空調換気ご相談センターにご連絡ください。		分解・修理禁止	
アースは確実に取り付ける 故障や漏電したとき、火災・感電の恐れがあります。 アースの取り付けは販売店や電気工事店を通じ、電気工事士へ依頼してください。		アースを接続する	
電源は交流100Vを使う 交流100V以外の電源を使うと、火災・感電の恐れがあります。		交流100V使用	
		改造はしない 火災・感電・けがの恐れがあります。	
		改造禁止	

<div> 注意</div>			
<div>電気工事・アース工事は電気工事士（※）が行う</div> <div>電気工事士以外の人が工事をすると、火災・感電・けがの恐れがあります。</div> <div>※電気工事士への依頼はお買上げの販売店または電気工事店にご相談ください。</div>	<div></div> <div>電気工事士が実施</div>	<div>炎が接近したり、当たる恐れのある場所には取り付けない</div> <div>火災の恐れがあります。</div>	<div></div> <div>炎禁止</div>
		<div>強度のある場所に確実に取り付ける</div> <div>落下により、けがをする恐れがあります。</div>	<div></div> <div>確実に取り付ける</div>
		<div>グリルや部品は確実に取り付ける</div> <div>落下により、けがをする恐れがあります。</div>	<div></div> <div>確実に取り付ける</div>
<div>浴室など湿気の多い所や水のかかる所では使わない</div> <div>火災・感電の原因になります。</div>	<div></div> <div>使用禁止</div>		
<div>取り付けのときは手袋を使う</div> <div>けがをする恐れがあります。</div>		<div></div> <div>手袋を使う</div>	

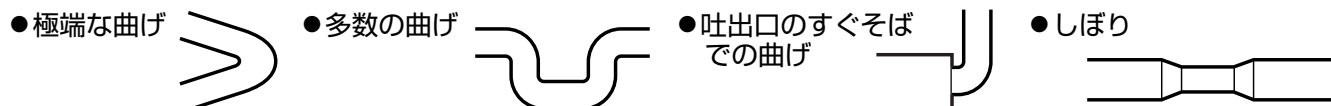
お 願 い

取り付け

- 高温(40℃以上)になるところに取り付けしないでください。(高温では、温度ヒューズが溶断して使えなくなります。)
- 外気が汚れている場所には取り付けしないでください。
- ダクト用システム部材の使用については、地区により異なった規制を受ける場合がありますので、あらかじめ所轄の官公庁(特に消防署)にご相談ください。
- 効果的な換気が行なえるよう、排気用の換気扇との併用をおすすめします。
- 腐食性ガスが発生する場所には取り付けしないでください。

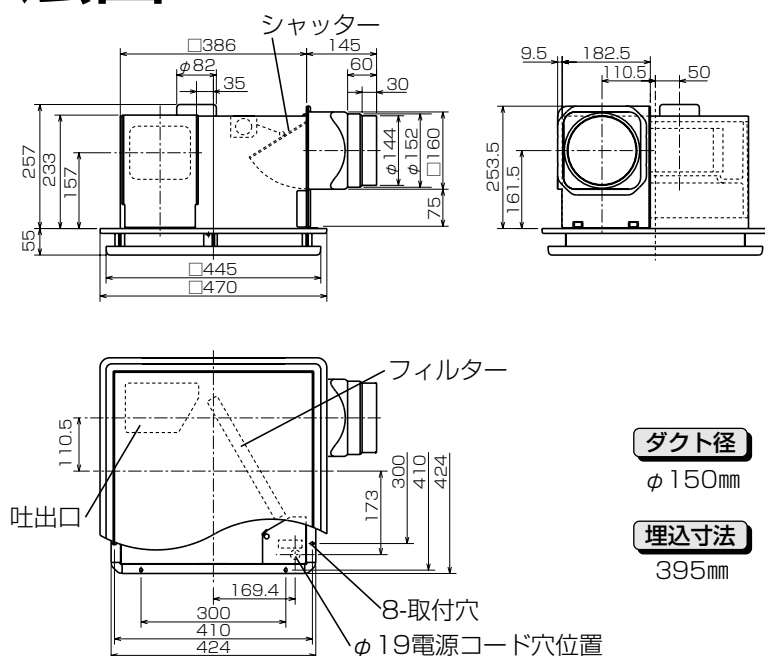
天井・ダクト工事

- 天井板は、振動・共鳴音防止のため強度のあるものをご使用ください。
- 給気ダクトは雨水の浸入を防ぐため屋外に向けて1/100以上の傾斜をつけてください。
- 給気ダクトの先端には、鳥などの侵入を防ぐためのベントキャップ(システム部材)または、雨水などの浸入を防ぐためのパイプフード(システム部材)などを取り付けてください。
- 次のようなダクト工事はしないでください。(風量低下や異常音発生の原因になります)



外形寸法図

単位 (mm)

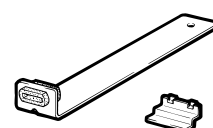


付属部品

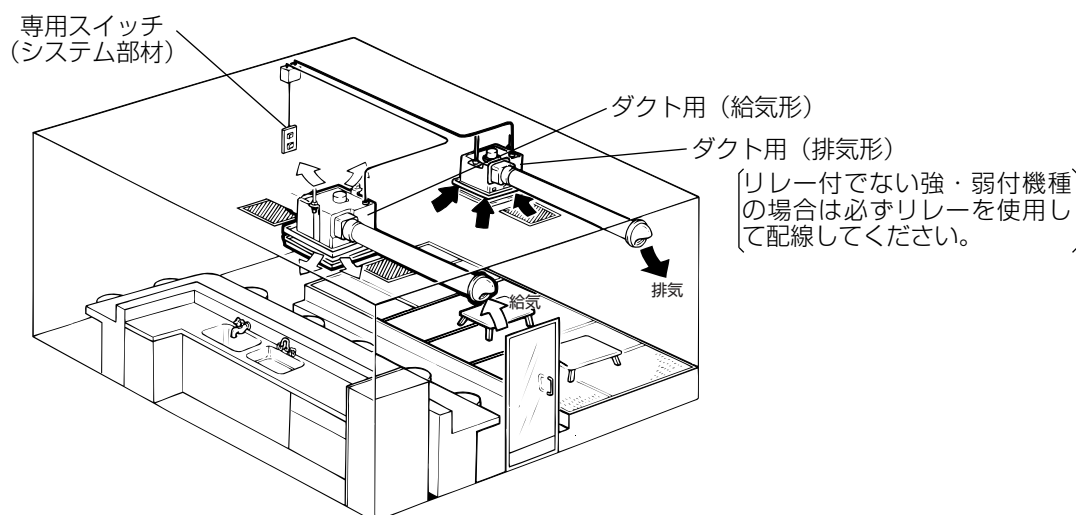
木ネジ.....9本



天吊金具.....2セット



システム例



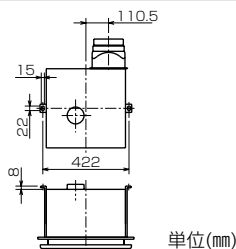
取り付けかた

取付手順例

- 1 取り付け前の準備
- 2 ダクト工事
- 3 本体を吊る
- 4 電気工事
- 5 軽量鉄骨を組む
- 6 本体の固定
- 7 天井材を張る
- 8 グリルの取り付け
- 9 試運転

1 取り付け前の準備

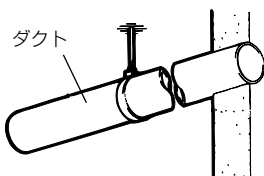
- (1) 取付位置・壁給気穴位置を決めます。
- (2) 吊りボルトを埋込みます。
図を参照してあらかじめ市販の吊りボルト(M8)を埋込みます。



2 ダクト工事

壁給気穴から本体のダクト接続口位置までダクト配管をします。

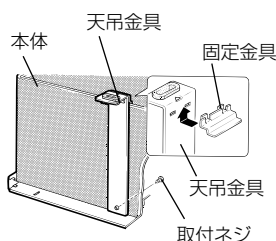
- ダクトは本体に力が加わらないよう天井より吊るしてください。



3 本体を吊る (野縁に取り付ける場合は4ページを参照してください)

1 天吊金具(システム部材)を取り付けます。

- (1) 固定金具を天吊金具の角穴に差込みます。
- (2) 天吊金具を本体に引掛けて内側より取付ネジで固定します。

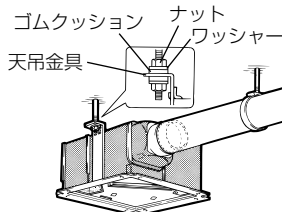


お願い

- 固定金具を天吊金具に確実に差込んでください。

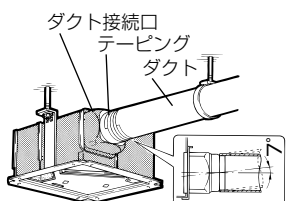
2 本体を吊ります。

- 本体が水平になるよう、天吊金具を吊りボルトに取り付け、市販のワッシャー・ナットにて確実に固定します。



3 ダクト接続口とダクトを接続します。

- ダクトをダクト接続口にしっかり差込んで風漏れのないようテーピング(市販品)してください。
- 塩化ビニール管と接続する場合、ダクト方向の微調整が可能です。(全方向7°)



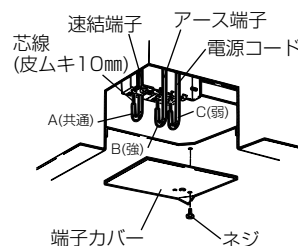
ご注意

- 結露防止のため、本体から壁面までの給気ダクトには必ず断熱処理をしてください。

4 電気工事

- 専門の電気工事店へ依頼し、電気設備技術基準に基づいて行ってください。

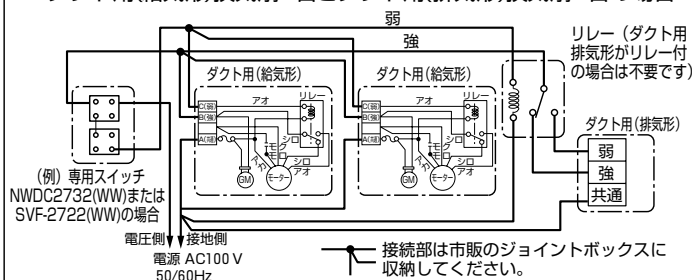
- (1) 本体上部のゴムブッシュより電源コード(屋内配線VVFケーブルφ1.6またはφ2)を通します。
- (2) 端子カバーのネジ1本を外して端子カバーを開け、速結端子に皮ムキした芯線を確実に奥まで差込みます。(結線図参照)
- (3) アース端子にアース線を接続します。(D種接地工事)。
- (4) 端子カバーを元通り取り付けます。



■結線図 太線部分を結線してください。

(ダクト用(排気形)換気扇(強弱付)と連動する場合)

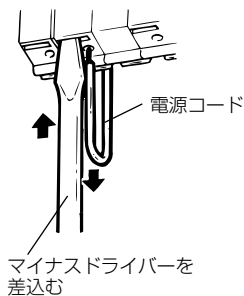
ダクト用(給気形)換気扇2台とダクト用(排気形)換気扇1台の場合



- 寒冷地など氷点下で運転される場合は排気と給気にそれぞれ専用のスイッチを設けてください。連動運転ではフィルターが凍結する恐れがあります。

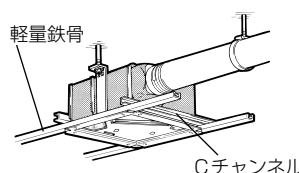
ご注意

- より線を結線する場合は、棒状圧着端子(市販品)をより線に取り付けてから速結端子に確実に差込んでください。
- 電線被ふくは10mmむいてください。本体にあるストリップゲージに合わせて、皮むきますと便利です。
- 電源コードは、接続部に力が加わらないよう本体付近で約150mmたるませてください。
- 電源コードを速結端子より外す場合は、マイナスドライバーで速結端子の外しボタン(赤色)を押しながら電源コードを引っばって外してください。



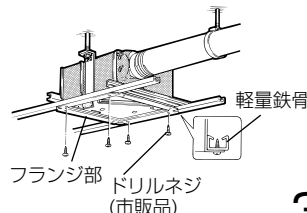
5 軽量鉄骨を組む

軽量鉄骨と開口部補強用のCチャンネルで右図のように組みます。



6 本体の固定 (メンテナンスができるよう固定)

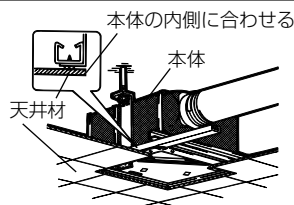
本体フランジ部の取付穴を利用して市販のドリルネジ(4本)で軽量鉄骨に固定します。



7 天井材を張る

天井材を張ります。

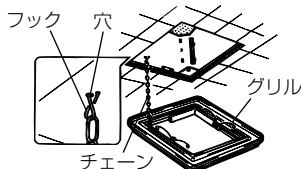
- 本体の内寸法に合わせて、天井材に角穴を開けます。



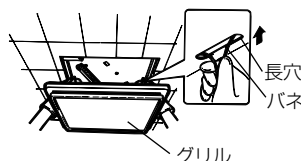
8 グリルの取り付け

グリルを取り付けます。

- (1) グリルの給気口側を確認後、グリルにチェーンが付いていますのでフックを本体の穴に右図のように引掛けます。



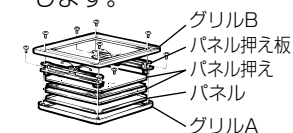
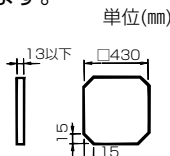
- (2) グリルには、2つのバネが付いていますので両手でバネをつかみ本体内部の長穴に差込み、手を放し軽くグリルを押して天井材に密着させます。



グリルと天井材を合わせる場合

グリルと天井材が同一で見ばえの良い取り付けかたです。

1. 天井材を切断します。
2. グリルを分解します。
3. 天井材とパネルを入換え、天井材の厚みに応じてパネル押さえを使用し、すき間のないように組立てます。



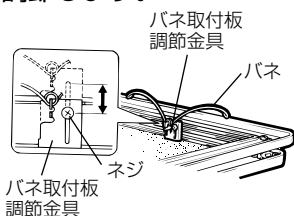
ご注意

- 天井材は厚さ13mm以下のものを使用してください。
- 天井材は重いもの・われやすいものは避けてください。(2.0kg以下)

グリルと天井材の間にすき間がある場合

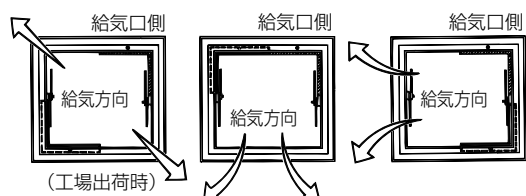
グリルのバネが本体の長穴に届かないときはバネ取付板調節金具の長穴分をスライドさせて調節します。

- ネジをゆるめ天井材の厚みに応じてスライドさせネジを締付け固定します。左右同一の調節をしてください。
- 天井材とグリルの間にすき間がないことを確認してください。

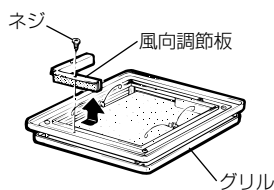


給気吹出方向を変える場合

給気による肌寒さをやわらげるために、グリルの風向調節板の位置を変えることで給気方向を3通に変えることができます。



※ 給気口側は固定されていますので位置を変えたり、外したりしないでください。



1. 風向調節板のネジ(1本)を外します。
2. 給気方向を決め、外した風向調節板をグリルの穴に合わせネジ(1本)で締付けます。
3. 給気側に風向調節板がくることを確認してグリル本体に取り付けます。

9 試運転

取付工事が終わりましたら次の確認をしてください。

1. 専用スイッチにて正常な運転ができますか？
- 風は強・弱に切り換わっていますか？
2. 振動・異常音はありませんか？

野縁に取り付ける場合

野縁の強度が十分でない場合は吊下金具を使用して本体を吊るしてください。

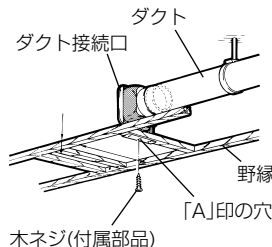
- (1) 下図のように天井の野縁と補助野縁で取付枠を組みます。

- ダクト接続口を取付ける野縁は45mm以下でないと取り付けることができません。

- (2) 本体よりダクト接続口を引き抜いて外します。

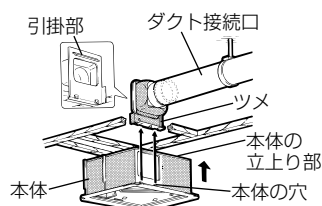
- (3) ダクト接続口を野縁に取り付けます。

- ダクト接続口を壁排気穴に向くようにして野縁の角の直角に合わせてすき間がないように付属の木ネジ(1本)で仮固定します。「A」の印の穴を使用します。



本体を野縁にそって差込みます。

- 本体の穴とダクト接続口の内側のツメ及び、本体の立上り部とダクト接続口の引掛部がはまり込むように本体とダクト接続口を接続します。

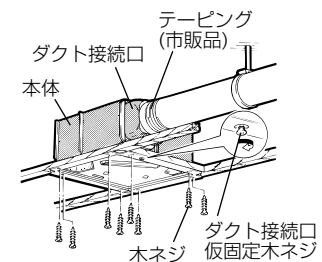


- (1) 本体を固定します。

- 本体がダクト接続口に密着していることを確認してから、付属の木ネジ(8本)で本体をすき間のないようしっかり固定してください。(すき間があると風漏れの原因になります)

- (2) ダクト接続口を仮固定している木ネジ(1本)を締付けます。

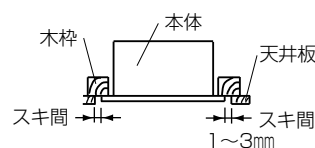
- (3) 風漏れのしないよう市販のアルミテープ等でダクト接続部をテープピングします。



4 電気工事 参照

7 天井材を張る 参照

天井板と本体フランジとのスキ間が1~3mmになるようにしてください。



8 グリルの取り付け 参照

9 試運転 参照

東芝キヤリア株式会社

ET9X459701-①

0909874HK0502